まちのエンガワ通信 No.50

中野まちのエンガワ・プロジェクト、なかの育フェスへのお問合せ●Eメール／nakanoikufes@gmail.com●Tel090－4712－9319（中村）

募集！なかの育フェス

いよいよ6回目！？

2018年6月23日（土）～24日（日）

場所／なかのZERO西館　1F 美術ギャラリー1

学習室 AB・2F 美術ギャラリー2

主催／中野まちのエンガワ・プロジェクト

なかの ZERO 指定管理者

企画／中野まちのエンガワ・プロジェクト

子育て支援はぴふる

★参加を検討されている場合、一度説明会に来て下さいね。

なかの育フェスとは？

●毎年6月に子ども・子育ての楽しい街をめざしているイベント。6年間続けることで発足し、今年はいよいよ6回目。例年参加する団体は40以上、1200人～1500人が来場。●なかのZERO西館を会場に、子育て支援、アート、パフォーマンス、遊びのテーマの4会場でコーナー、ワークショップ、講座が並ぶ。●イベント開催時のみならず、年間を通じて、プロジェクトを企画。●その成果は中野区内の地域とつながり、還元をめざし、少しずつ実践を重ねている。

なかの育フェス 出展・企画参加募集

●一緒に考えるしくみ

なかの育フェスは今年で第六回を迎えます。区民が手作りではじめたフェスティバル、来場されるお客さん、フェスに参加する仲間が影響し合って、化学変化を起こしながら継承されてきました。決してはじめからプログラムされ、デザインをし始めたものではなく、「やってみて考える、やりながら考える場」であるからです。

●テーマ共有の先に

育フェスの共通のテーマは

ひと・いきカフェ
エカイエ
エカイエは複数の人達が一緒に支えて創る「カフェ」。育フェスやエンガワ等のコミュニティの活動の拠点にもなっています。
●中野区上高田1－34－1
電話03－3360－3330

お問い合わせは090－4712－9319（中村）まで

●いよいよ第六回目だよ

「いっしょに考えよう！なかの育フェス、どうする！？＆説明会」

2月7日（水）・21日（水）午後7時～

場所　エカイエ

第六回をむかえる「なかの育フェス」こんなフェスにしたい！こんなことできるかな？等ざっくばらんに話します。初めて参加したい方も是非ご参加を！

●いよいよ本編影絵製作！／育フェスつながりプロジェクト

「決戦！江古田の原っぱ ～のら猫たちのララバイ～」

2月12日（月）・26日（月）午後7時～

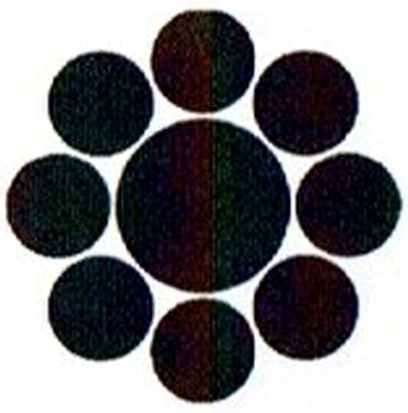
場所　エカイエ

中野の歴史を楽しみながら表現にする試み第三弾。室町時代、応仁の乱が終わったころ、関東でも勢力争いが始まり、「関東の関ヶ原」と呼ばれる決戦が中野で行われたのです。歴史にご興味のある方、影絵や人形劇、語りに興味ある方、冷やかし半分興味本位大歓迎です。

「子ども・子育て」。ここから遊び、アート、まちづくりが関連し、さまざまな展示や出展に発展しています。多くの見本市等は、各自の PR をメインにしていますが、育フェスの場合はテーマに基づいて、準備や終了後にも、さまざまな交流や講座・勉強会が行われています。

『決戦！江古田の原っぱ』本編！いよいよ製作始動

●昨年の予告編を受けて、1 月からいよいよ本編を製作。予告編では、江戸城を築いたと言われる「太田道灌」の生い立ちの紹介でしたが、今回は、関東の関ヶ原と呼ばれる「江古田原沼袋の戦い」。道灌に滅ぼされる「豊島氏」(現在の豊島園・石神井公園の所に城があった)側から描く事に決定しました。



リレー★育フェスの作り方⑦

連載 文化人類学的にいうと「ブリコラージュ」

●あるとき、M さんだした言葉「ブリコラージュ」。気になって調べてみました。

ブリコラージュは、理論や設計図に基づいて物を作る「エンジニアリング」とは対照的なもので、その場で手に入るものを寄せ集め、それらを部品として何が作れるか試行錯誤しながら、最終的に新しい物を作ることである。ブリコラージュする職人などの人物を「ブリコルール」（bricoleur）という。ブリコルールは既にある物を寄せ集めて物を作る人であり、創造性と機智が必要とされる。また雑多な物や情報などを集めて組み合わせ、その本来の用途とは違う用途のために使う物や情報を生み出す人である。端切れから日用品を作り出す世界各国の普通の人々から、情報システムを組み立てる技術者、その場にあるものをうまく使ってピンチを脱するフィクションや神話の登場人物まで、ブリコルールとされる人々の幅は広い。

●自分たちの活動が、ちゃんとデザインされているわけではなく、毎回行き当たりばったりでやっている事を若干悔いていたのですが、文化人類学的に言うと、世界各地にみられ、人類が古くから持っていた知恵であり、近代以降の考えに影響されて「きちんとしなきゃ！」に怯えていたのだと分かりました。

私が聞いた「戦争」とは？WS　報告①

2018 年 1 月 23 日(火)午後 7 時エカイエにて「エカイエワンコイン講座」

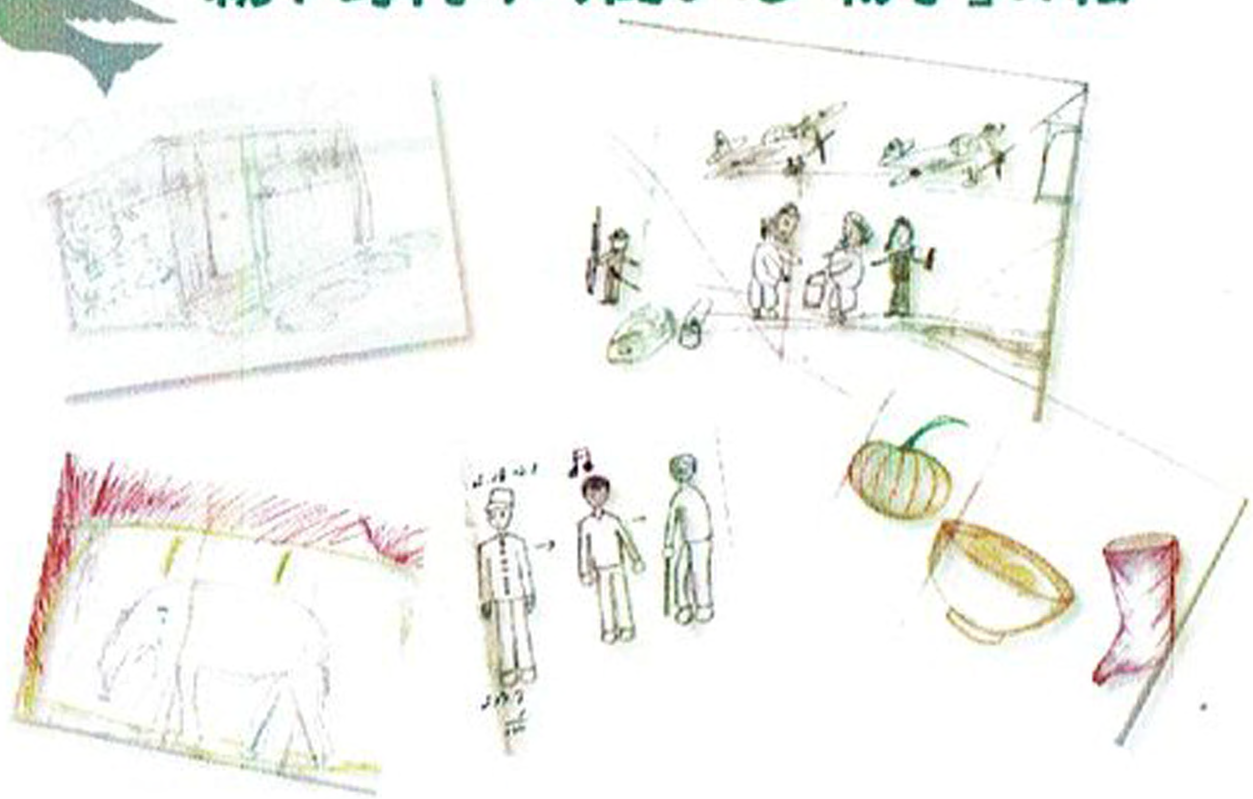
次回は、
読んでみたよ
戦争の本特集

「戦争」はイデオロギーの対立？

◆戦争を知らない子ども達が、大人になり、もう年金をもらうお年頃…。いったい戦争って実際どんな事なのか？私たちは、次の世代に何を伝えるのか？自分の周りの人に直接聞いた話を「絵」にして、みんなで共有し、「私」にとっての戦争を考えてみる試み。通常だと表面的にすぐイデオロギーの対立になってしまい、あまり人前で素直に話す機会がないのです。

自分自身
どう感じるか？を
第一歩にしたいな

親や身内から聞いた「戦争」の絵



まず、その時の人の心情を感じてみる。

★「必ず生きて帰ってくる」とトイレに書いて出征し帰ってこなかった人。軍事工場で働いていた「青春時代」の母親。くじ運が悪いので、当たらないと思って「特攻隊」に志願したら、当たってしまった義父。シベリアに抑留されて、絶望的に暮らす日本人と、歌を歌いながら強制労働するドイツ人を観た父・・・。